

⑫ 公開特許公報(A) 平4-70485

⑮ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成4年(1992)3月5日

E 06 B 1/62

B

6951-2E

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 窓の額縁固定構造

⑯ 特 願 平2-185132

⑰ 出 願 平2(1990)7月11日

⑱ 発 明 者 大 西 克 則 神奈川県横浜市緑区美しが丘4-13-6

⑲ 発 明 者 伊 理 知 香 東京都豊島区駒込6-9-16

⑳ 出 願 人 積水化学工業株式会社 大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

明 細 書

1. 発明の名称

窓の額縁固定構造

2. 特許請求の範囲

窓の額縁枠開口部内面を、基枠部材の額縁取付部上に取付けるための固定構造において、前記基枠部材上に、前記額縁の枠開口部内面に対向する背面をその内面に向けて押圧するための弾性偏倚手段を配設したことを特徴とする窓の額縁固定構造。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、建物における窓の額縁の固定構造に関するものである。

(従来の技術)

従来、住宅等の建物の窓部の室内壁開口部周縁には、いわゆる額縁(化粧縁)が仕上用に取付けられている。第4図に、従来のこの種の窓開口部の一例の要部縦断水平断面概略説明図を示す。図において、40は、額縁取付用基枠部材としての

窓サッシ枠、41は外壁パネルである。42は室内壁パネル、43は、その窓開口部周縁に取付けられた枠状の額縁で、その枠開口部内面を窓サッシ枠40の室内側に突出した取付縁40a上に嵌合させて、複数の小ねじ(通称ビス)44等により固定するよう構成されていた。

(発明が解決しようとする課題)

しかしながら、以上のような従来の額縁固定方法にあっては、室内側から見て、サッシ枠40の取付縁40a上に複数の取付穴が穿設されてその中に各小ねじ44の頭部が露出しており、たとえばこれらが皿小ねじで上面が取付縁表面と面(つら)位置の場合であっても、外観上目立って見苦しいという難点があった。特に、最近では、住宅顧客側からの高級化指向が一般的に顕著であり、このため、窓構成や意匠等もこれに対応しようとする試みも行われているが、額縁の固定方法としては、いずれも前記のような方法が採用されていた。

以上の従来例は、通常の平面窓の場合について

説明したが、さらに外觀意匠上の諸要素を有する出窓開口部についても同様であり、例えば、その室内装飾的効果向上を目的としている実公昭63-24225号公報等においても、その室内壁開口部の上部及び両側面の各化粧縁(額縁)の取付けに関しては、前記例のサッシ枠に代って、天板及び各側面基枠部材等の取付縁に対して、前記従来例と同様の方法によりビスで取付けており(引用例の重複図示は省略する)、室内側からその取付ビス頭が露出して見え、外觀的に見苦しい点は全く同様であった。

本発明は、以上のような局面にかんがみてなされたもので、この種の取付部にねじ止め用の穴やねじ頭などが露出することのない固定構造の提供を目的としている。

(課題を解決するための手段)

このため、本発明においては、窓の額縁枠開口部内面を、窓サッシ枠等の基枠部材の額縁取付部に取付けるための固定構造において、前記基枠部材上に、前記額縁枠開口部内面に対向する背面

3は外壁パネル、4はサッシ枠、5は引違いガラス窓、6は(開口)額縁である。7は、枠材フレーム2に特殊ボルト8により固定されて開口縦棧、9は、ポリエチレン発泡体テープによる防湿層を示す。

10は、開口縦棧7にタッピングねじ11で取付けられた、例えばばね鋼等の高弾性係数金属材料製のサッシ枠取付部材で、その両側端縁に、サッシ枠4の各両側端縁の各折曲げ鉤部をそれぞれ係合してサッシ枠4を取付/固定しており、サッシ枠4、取付部材10及び開口縦棧7で全体的に基枠部材を構成している。

サッシ枠4の室内側端部には、額縁6の枠開口部内面を取付け支持するための取付縁4aが延びている。

この実施例の特徴は、本発明原理により、サッシ枠取付部材10の額縁6の取付内面6aに対向する外面(背面)6b側に、この背面6bを内面6aに向けて押圧するための板ばね部10aを配設したことにある。

を、この内面に向けて押圧するための弾性偏倚手段を配設するよう構成することにより、前記目的を達成しようとするものである。

(作用)

以上のような構成により、枠状の額縁を、上記各弾性偏倚手段の押圧力に抗して額縁取付部の所定位置に押込むことにより、この取付部には小ねじ等の固定手段を要することなく弾性的に押圧固定されるため、この取付部は無傷のまま外観を改善することができる。

(実施例)

以下に、本発明を実施例に基づいて説明する。

第1図に、本発明に係る額縁固定構造の一実施例の引違い窓開口部の要部破断水平断面図、第2図に同要部垂直面図、第3図(a)、(b)に、それぞれ第2図A、B部の拡大詳細図を示す。

(構成)

窓開口の両側面部の水平断面を示す第1図において、1は窓開口枠材、2はその枠材フレーム、

(取付法)

このため、従来例においては、サッシ枠4の取付縁4aにビス穴を穿設して額縁6に対して直接ビス止めしていたのに対して、本実施例においては、額縁6を、室内側から取付縁4a部に板ばね部10aの弾性力に抗して所定位置まで挿込むことにより、取付縁4a上に背面6aより押圧されて固定され、取付縁4a部にはビス穴等を必要としないため、外觀意匠を損なうことがない。

なお、本実施例においては、額縁6の背面6bには凸縁部6cを備え、内壁パネル12の枠材13上に釘等で固設された取付部材14に釘15により念のために室内側より固定しているが、この釘頭は後施工で内壁パネル12面に貼る壁紙16によって完全に隠されて、外観を損なう怖がない。

なお、第1図中、16はアルミ製の水切材、17はシーリング材、18はガスケット、19はセラミックファイバを示す。

つぎに、窓開口部の上下面部の垂直断面を示す第2、3図において、前記第1図における同一構成要素は同一符号にて、また、相当対応要素はそれぞれ同一符号にA、B等を付して対比させて示す。

すなわち、7Aは第1図における開口縦横7に対応する各開口横横、4A/4Bはそれぞれ上/下のサッシ枠、10A/10Bはそれぞれその取付部材、また10Aa/10Baは、それぞれの取付部材10A/10Bの一部にまたは単独に設けられて、各サッシ枠の取付縁4Aa/4Ba上に当接支持される額縁6の枠開口部内面6aに対向する背面6bを内面6aに向って押圧するために配設された板ばね部である。第3図(b)における板ばね部10Baは、取付部材10Bと単独であり、その下方部で取付部材10Bの側面に溶接固着されている。各取付部材10A/10Bの各開口横横7Aに対する固定法や、各取付部材10A/10Bへの各サッシ枠4A/4Bの係合/固定法ならびに額縁6の取付

法等に関しては、前記第1図の場合に準ずるので、重複説明は省略する。ただし額縁6の固定に関しては、額縁6の枠上/下部材は、それぞれ前記板ばね10Aa/10Baによる押圧のみで、第1図に示した補助用の釘15固定は施していない。

なお、第3図(b)における18は、アルミ製水切材16A内部のロックウール材を示す。

(他の実施例)

上記実施例においては、住宅家屋の普通の平面窓部の事例について説明したが、これが出窓形式の場合にも、前記サッシ枠に代って天板、地板または各側面基枠部材等の取付部に対しても、本発明を適用し得ることはもちろんである。

また、前記弾性偏倚手段としての各板ばね部は、これのみに限定されるものでなく、他の形式の弾性手段であっても差支えないことも自明であり、また、かならずしも取付部材10、10A、10B等とは一体構成でなく、第3図(b)における10Baで示すように、単独構成のもので

あってもよい。

(発明の効果)

以上説明したように、本発明によれば、窓の開口部に額縁基枠部材を取付ける場合に、額縁の枠開口部内面に対向する背面をこの内面に向って押圧するための弾性偏倚手段を設けて挟持固定するよう構成したため、その基枠部材の額縁取付部上に外観を損なう小ねじ頭部や穴が露出することなく、外観意匠を向上することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、この発明に係る額縁固定構造の一実施例の窓開口部要部破断水平断面図、第2図は、同要部垂直断面図、第3図(a)、(b)は、それぞれ第2図A、B部の拡大詳細図、第4図は、従来の窓開口部の一例の要部破断水平断面概略説明図である。

4、4A、4B……サッシ枠

4a、4Aa、4Ba……額縁取付縁

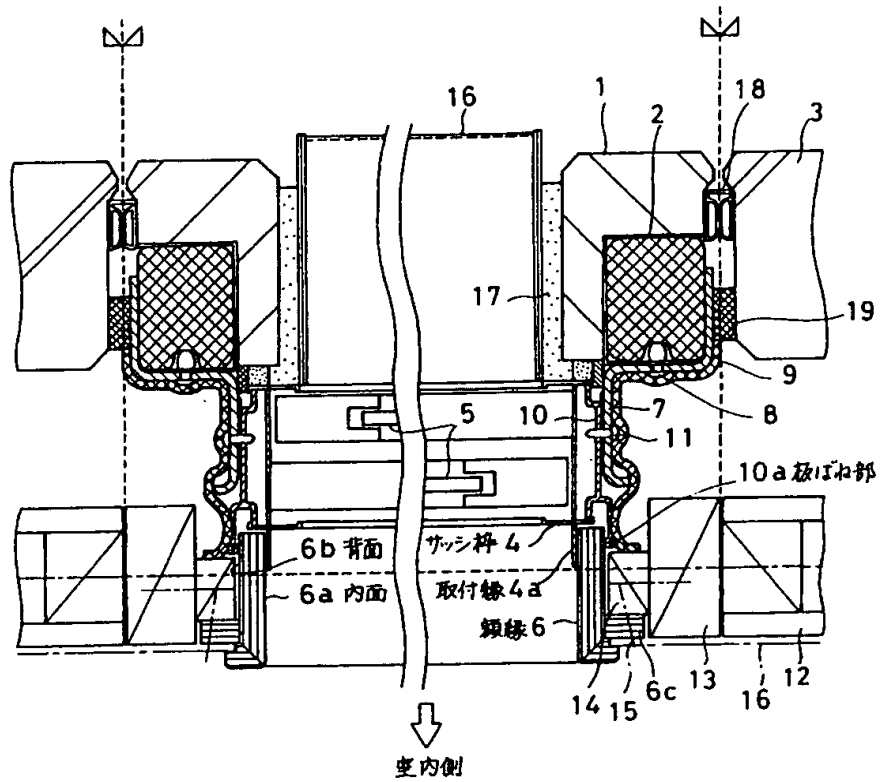
6……額縁

6a/6b……枠開口部内/外面

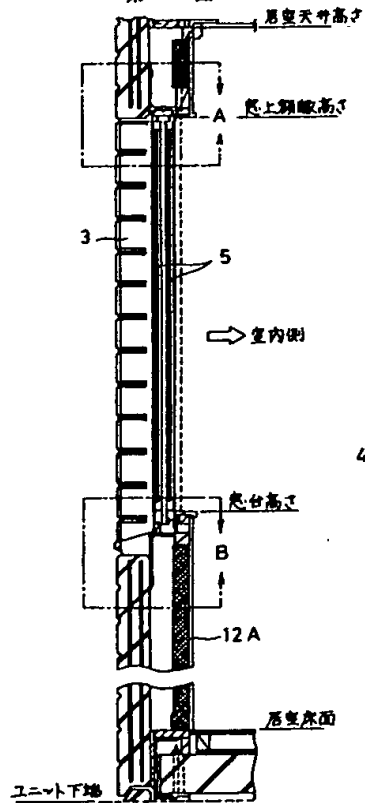
(4、4A、4B……サッシ枠)
7/7A……開口縦/横横
10、10A、10B
……サッシ枠取付部材
10a、10Aa、10Ba……板ばね部
(弾性偏倚手段)

出願人 積水化学工業株式会社

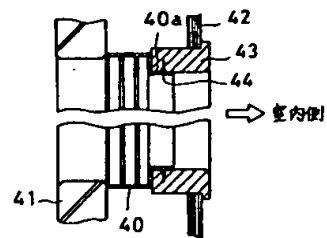
第 1 図



第 2 図

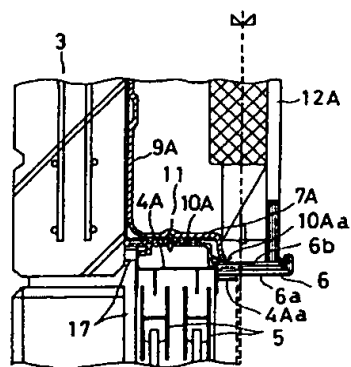


第 4 図



第 3 図

(a)
A部詳細



(b)
B部詳細

